

学校名	長野県安曇野市立堀金中学校
-----	---------------

活動のテーマ	命を守るために～災害・防災について調べ、発信しよう。
主な教科領域等	教科領域（ 総合的な学習の時間 ）
活動に参加した児童生徒数	（主として3年2組35人、防災学習講演会参加は全校生徒309人）（複数可）
活動に携わった教員数	<u>総合的な学習については主として1人</u> ※講演会では全職員30人も携わった。
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	<u>12人</u> 【保護者・地域住民・○その他（被災やなど災害の関係者）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。 （複数可）
実践期間	西暦 2020年 7月 20日 ～ 西暦 2020年 11月 5日
想定した災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 <u>以下にある全ての災害について、クラスで担当を決めて調査した。</u> 地震・津波・台風・洪水・河川氾濫・土砂・その他 ()

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

- ・過去の災害やこれから起こる可能性のある災害を調べたり、災害に関わった人達から直接話を聞いたりすることで、災害が他人事でないと感じることができる。
- ・自分たちで得た情報をまとめて発信することで、自分だけでなく他者の命も災害から守りたいという思いを持つことができる。
- ・郷土の災害の歴史を調べることで、自分たちの身近な災害に気づくことができる。
- ・発表などで全校生徒に情報を発信することで、学校全体が災害に対する危機意識を高めることができる。

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

7月13日：防災に関わる個人の追求テーマの決定

7月17日：情報収集方法説明、担当責任者決定

7月21日：東日本大震災のボランティア参加の話（本校の小平教頭より）

①班 堀金文書館および図書館の取材。資料提供のお願い。

⑤班 千曲川災害のボランティア参加者の取材

その他の班：インターネットや書籍、新聞からの情報収集

7月31日：長野県南木曾土砂災害の状況と、被害者の友人達のその後の歩みについて、上松中学校 秋山昇校長先生よりクラス全員にお話をいただいた。（⑥班担当）

8月3日：信濃毎日新聞社島田隆一記者による、御嶽山噴火災害取材の講演。（③班担当）

8月24日～：⑧班 地震学専門の大学教授より、メールで資料を提供していただいた。

②班 安曇野市役所に電話で取材をし、防災の資料を提供していただいた。

- ④班 栄村復興記念館に電話取材をし、資料を提供していただいた。
- ⑪班 石巻市立北上中学校元校長島山卓也先生から、東日本大震災当時の中学生の行動等についての資料を提供していただいた。
- ⑨班 福島第一原発の被害を受けた住民の話電話で取材し、資料を提供していただいた。
- ⑦班 熊本地震体験者から取材をした。
- ⑩班 「小さな命を考える会」代表、佐藤敏郎先生から、東日本大震災で次女を亡くされた大川小学校や、震災の俳句を作った女川中学校の話電話で伺い、講演会を依頼した。

9月2日～23日：収集した情報を分析し、まとめる

9月25日：文化祭での放送、展示発表

11月5日 人権講演会「3.11を学びに変える」

「小さな命を考える会」代表、佐藤敏郎先生から、東日本大震災で次女を亡くされた大川小学校や、震災の俳句を作った女川中学校の話全校生徒、全職員で拝聴した。

2月13日～16日：冊子原稿印刷所入稿・校正

3月11日：冊子配布

3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

3年2組の総合的な学習の中で、生徒達が「小さな命を考える会」代表の佐藤敏郎先生に連絡したことがきっかけで、11月5日に本校で講演会を開いていただけることとなり、東日本大震災で次女を亡くされた大川小学校や、震災の俳句を作った女川中学校生徒の話全校生徒、全職員で拝聴した。

拝聴しながら涙を流す生徒や職員の姿があり、命の尊さを改めて考え直すことができた。また、毎年行われている避難訓練のあり方も見直すきっかけとなり、生徒達も先生の指示待ちの避難ではなく、自分たちで考えることが大事であると気づくことが出来た。

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

例年行われている避難訓練は、「訓練のための訓練」という意識がぬぐいきれなかったが、総合的な学習の成果を文化祭で全校生徒に発表したことで、発表した生徒や発表を聞いた生徒だけでなく、職員の防災への意識の変化がみられた。特に佐藤敏郎先生の講演会は、生徒の命を守る教員の立場として、本校で行われている避難訓練が有効なものであるかを見直すきっかけとなった。

②児童生徒にとって具体的にどのような学び（変容）があり、どのような力（資質・能力・態度）を身につけたか。

東日本大震災などの被災者や災害に関わった方から直接お話を聞くことで、被災した方々の思いに寄り添うことや、災害への意識を風化させてはならないといった思い、防災意識の高まりがみられた。

③ 教師や保護者、地域、関係機関等（児童生徒以外）の視点から

保護者限定で総合的な学習のまとめを動画配信したが、それらを見た保護者の方から、「生徒達の学習意欲に感動した」「改めて防災について考えさせられた」などといった感想が寄せられた。また、情報を提供して下さった地域の文書館の関係者からも、賞賛の声が寄せられた。

5) 工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

- ・一つの災害だけでなく、色々な災害を調査させた。これから起こる可能性のある災害についても調べさせた。
- ・一人一形態で発表することを課したことで、学習を主体的に進めることができた。
- ・「必ず災害に関わった方から直接話を伺うこと」を課題にしたため、ただの調査学習ではなく、災害の当事者の思いに寄り添うことができた。

6) 実践から得られた教訓や課題と次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

- ・コロナの影響で、今年だけの特設の総合的な学習となったので、来年度以降の継続が難しい。

7) その他（※特にあれば記述）

堀金の自然災害

1・昭和39年の災害

霜害の状況

雨らしい雨が降らず日照りが続いていた為、5月27日に起きた晩霜の害【ぼんそう・春の終わりに降りる霜】は予想以上のものだった。

この被害はいわゆる霜道と称する。倉田南農の農場周辺、川口の1部、岩原の新屋から倉田西原地積より三田稚蚕所周囲に被害があり、中でも最も被害が大きかった場所は三田稚蚕所周囲で、桑（クワ科の落葉高木、葉は養蚕用。紫色の実は甘く食用。材は家具用）、ジャがいもやいんげんなど、全滅したものが多くあった。

◇おおよその被害状況

- トマトの被害面積が約 29741 km²
- ジャがいもの被害面積は約 257842 km²
- トマトの被害額は約 297.510 万円
- 桑の被害面積は約 1953649 km²
- トマトの被害額は約 304 万円
- ジャがいもの被害額は約 288 万円
- 桑の被害額は約 5011 万 6000 円
- 雑穀の被害面積は約 297510 km²
- とうもろこしの被害面積は約 198340 km²
- 雑穀の被害額は約 216 万円
- とうもろこしの被害額は約 180 万円
- 雑穀の被害額は約 2667673 km²
- 雑穀の被害額は約 5989 万 6000 円

農作物の被害状況（表）

	被害面積 (平方キロメートル)	被害額 (円)
トマト	29,741	3,040,000
ジャがいも	257,842	2,880,000
桑	1,953,649	50,110,000
雑穀	297,510	2,160,000
とうもろこし	198,340	1,800,000
合計	266,767.3	59,890,000

堀金以外の安曇野市の自然災害

1 安曇野市の地形について

安曇野市は急峻で高低差のある地形や複合扇状地の地形という地理的背景から、台風や異常気象による集中豪雨によって起こる災害が懸念される。地震に関しても牛伏寺断層を含む糸魚川-静岡構造線断層帯を震源とする地震など、直下型地震による影響も計り知れない。それに加えて、近年の都市化、高齢化、国際化等により、災害脆弱性の高まりが見られるため、これらの変化に十分配慮しつつ防災対策を推進する必要がある。

その対策に、防災施設・設備の整備の促進、防災体制の充実、住民の防災意識の向上及び自主防災組織等の育成強化、要配慮者を含めた多くの住民の地域防災活動への参加などを行っている。

<https://www.city.azumino.nagano.jp/seshiki/4/11752.html>より引用

2 風水害について

当市では犀川、穂高川、高瀬川がそれらの合流部を中心に2～5mの浸水の恐れがあり、台風や集中豪雨により過去にたびたび氾濫している。また、黒沢川、万水川の両岸で幅1～1.5kmにわたって0.5m未満程度の浸水の恐れがある。市域の東西を急峻な山地帯が囲んでおり、法指定による土砂災害警戒区域、土砂災害危険箇所など、土砂災害を警戒すべき区域・箇所が多数存在している。

国土交通省北陸地方整備局千曲川河川事務所では、水防法改正に伴い平成19年1月に犀川流域が浸水想定区域の指定を受けたことにより、浸水想定区域図を作成・公表し、本市でもこれに基づき洪水ハザードマップを作成し、市民に配布している。

これが洪水ハザードマップの実物だ

干害の状況

4月中旬から6月中旬までの約二ヶ月の間、雨らしい雨が降らなかった為、畑作物は勿論の事、早害を受け、大豆・とうもろこし等は発芽したものの、日照りの為生育は遅く悪い。この為深根性のもので生育を悪くした。

一方、この日照りにより、十ヶ堰掛り以外の烏川堰、廻廻し堰、温堰掛りは、水不足によって田植えも思うように出来ず、番水によって何とか田植えができたが1部において田植え後、水も掛らず大きな亀裂を出したところもあった。

2・昭和58年の災害

台風10号大きな爪跡

9月28日、天災の少ない平穏な村と人々から羨まれるほどの堀金でも台風10号の襲来により、今だかつてない記録的な災害を被った。

特に酷かったところは、田々井の山沢の氾濫による田畑や床下浸水、黒沢川の決壊による市場整備現場の被害、万水川の決壊、大野沢橋周辺など至る所に爪跡を残した。

!!災害は忘れたころにやってくる!!ということですね。

しかし、村の消防団員をはじめ村民が一体となることで災害防止に努め、最小限に食い止めました。

!!備えあれば憂いなし!!と、災害に備え、とっきの時に役立つ必需品は、用意しておきましょう。

3・平成元年の災害

安楽寺跡の石垣崩れる

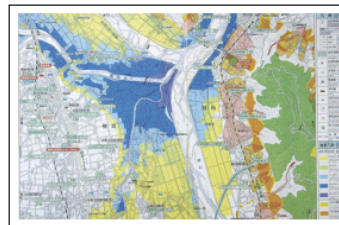
1月26日、大雪の為、村史跡安楽寺跡の石垣が中約5mにわたって崩れ落ちました。

石垣の途中に生えていた松の太木が大雪の重みで、根こそぎ倒れたため、根元近くの石垣が崩れたのです。

かつて、岩原城の構えともなった安楽寺の石垣とあって、立派なものでした。

村教育委員会により史跡に指定され、案内板、標柱が建てていますが、根元が朽つているため、建て替えが必要な状態となりました。

また、村内外から見学者が訪れていたが、境内の跡も草や、藪で見学ができない状態で、保存が困難な状態になりかねないため、史跡としての整備が必要となりました。



治水事業が進んだ現在においても、計画高水流量を超える増水は十分に考えられることから、この浸水想定区域図の想定を被害想定として、水害対策を進める。なお、水害の発生場所、被害程度は、地形や堤防の構造のみならず、周辺の田畑等の雨水貯留機能の状況や排水路の状況など、複雑な要因に規定されることから、浸水想定区域図で示された

https://www.shimintimes.co.jp/news/assets_c/2019/11/hpej11190060-thumb-1000xauto-7358.jpg

想定は1つの目安と考え、想定されていない場所、想定されていない規模の水害についても柔軟な対応ができるよう留意する。

3 土砂災害の想定

当市域の東西を急峻な山地帯が囲んでおり、法指定による土砂災害警戒区域、土砂災害危険箇所など、土砂災害を警戒すべき区域・箇所が多数存在し、本市では、土砂災害ハザードマップを作成し、市民に配布して、市民に注意を呼びかけている。これらの区域・箇所での土砂災害を想定するほか、法未指定の区域・箇所についても、先入観にとらわれず、土砂災害が起こりうるものと想定し、柔軟な対応ができるよう留意する。

1・交通・通信施設の風水害に対する安全性の確保、治山、治水事業等の総合的、計画的推進等風水害に強い安曇野市を形成する。

2・総合的風水害対策の推進等による風水害に強いまちの形成、建築物の安全性確保、ライフライン市内は、急峻な地形、もろい地質とあいまって風水害による大きな被害が懸念される。



梅雨前線 豪雨	昭和 40 年 7 月 12 日 から 13 日	梅雨前線の豪雨の影響により、屎川、高瀬川が氾濫した。 ※写真は明科地域(下押野)の屎川堤防が決壊した様子。 地元住民及び消防団員 600 人が水防作業にあたる。
------------	--------------------------------	--



台風 10 号	昭和 58 年 9 月 28 日	台風 10 号の影響により県内各地で被害が発生。死者 9 人、家屋全壊 53 世帯、床下浸水 6,975 世帯に達した。安曇野市においても、豊科田沢地帯で国道 19 号の路肩が崩壊、明科地域で警戒水位を突破し、床上浸水 13 世帯、床下浸水 72 世帯、徳高地域でも床下浸水 33 世帯の被害を受けた。
---------	---------------------	---

などがある。
6 防災バッグについて
一人ひとりに準備するもの
ヘルメット、タオル、懐中電灯、衣類(長そで)、現金、タオルなど

家族で準備するもの(生活用品) 家族の飲料水、食料(一人あたり水 3 リットル、食料 3 日分)、携帯ラジオと予備の電池、救急用品、薬品、カセットコンロと予備のボンベ、ローソク、ライター、マッチ、ティッシュペーパー、雨具、ナイフ、連絡用のアドレス帳と預金通帳のコピー、印鑑、筆記用具(マジックなど)
これらのものがすべてなくても、できるだけ集めることが大事。そしてほかにも必要なのはたくさんあるので自分で必要だと思うものは持っていくのに支障がないレベルで入れてみてほしい。
5 まとめ
もし、災害にあってしまったら、あわてず、災害に関する正しい知識や情報にもとづいて、自分で何をしたら良いか、きちんと理解して適切な行動をとるようにしましょう。また、困っているのは自分だけではありません。家族や地域の皆さんと協力しみんなで助けあいましょ

長野県の火山災害

3 年 2 組

1 御嶽山

皆さんにとって火山とは何ですか? 深く考えた事がありますか? 長野県や日本にはたくさんの活火山があります。そして実際に噴火したのが私達の身近な御嶽山です。戦後最悪の被害を出した御嶽山噴火。今現在分かっている事をまとめていこうと思います。
場所 長野県・岐阜県
年月日 2014 年 9 月 27 日
時間 午前 11 時 52 分
影響 死者 58 名 行方不明者 5 名
計 63 名(2015 年 11 月 6 日現在)
噴火原因 水蒸気爆発



上記にも書いた通り土曜日の正午近くに噴火した事が戦後最悪の被害を出した原因です。噴火した時期は紅葉が綺麗なためたくさん登山者がいました。山頂につき一息ついたところでの噴火。登山者には防ぐ方法がありませんでした。
その一方で専門家や気象庁は対策ができたはずですが、噴火する 2 週間ほど前から火山性地震が活発になっていました。1日に 50 回を超える地震。7 年ぶりの水準でした。この時点で噴火警戒レベルを 2 に引き上げていけば火口から 1 キロ以内の入山が規制されていた。犠牲者の多くは火口から 1 キロ以内で被災されています。規制をしてさえいれば戦後最悪の被害は出なかったことでしょう。
それではなぜ噴火が起こったのかをまとめてみたいと思います。噴火の種類は水蒸気爆発。仕組みは次の通りです。
地下水がマグマで熱くなる⇒熱水だまりができる⇒さらに熱くなり、圧力が増す⇒一気に膨れて、山頂へ

身近なもので表現すると、やかんや鍋に水を入れて沸騰し、やかんや鍋が、「がたがた」となるような感じだそうです。

また、噴火に対する設備がないのも原因でした。山頂にも建物はありませんが、風を防ぐためのもので木造でした。その建物は噴出物に耐えられるだけの強度がなく穴だらけになりました。コンクリートの建物なら耐えられる強度があったはずですが、まさか噴火が起こるはずがない。そんな油断が被害を大きくしたのでしょうか。

遺族の方のお話をまとめていこうと思います。噴火によって恋人をなくした三重県在住の M さんの体験談を御嶽山について取材した毎週記者の島田隆一さんに教えていただきました。「生き延びなければ良かった。」と最初に語っていたそうです。11 月 1 日には婚約届けを提出し幸せの絶頂になるはずだったのに・・・男性は M さんの目の前で夕闇が迫る中、息を引き取りました。婚約指輪をつけ脚のリハビリに励む M さんは「ただ生きているだけ。目標も先も見えない。」と語っていました。しかし男性の妹に「兄に幸せだったと報告できるように頑張ろう。」と言われ幸せの時の落差に戸惑いながらも今を生きているそうです。
御嶽山の被害を繰り返さないために専門家や私達に出来ることがあります。それは火山観測・研究態勢の一元的な強化や国、県、地元市町村、専門家はもっと強く連携すること。登山者の火山への意識を高める場所を設け、火山の急変から登山者、観光客を守るため備えること。市民は火山について学ぶこと。被災者の心を支える仕組みを考えていくこと。御嶽山の火山災害を風化させないように心がけること。

つまり、「何が起きているかを知る、知らせる、受け止める」のが大切だということです。難しいかもしれませんが出来る事から行動に移していきたいと思います。

2 浅間山



左の絵を見たことがありますか? 左の絵は 1783 年に噴火した浅間山の絵です。浅間山は 1721 年、1775 年と噴火を繰り返して合計で 2000 回を超える噴火が起きました。そして絵に描かれている 1783 年の噴火で被害が拡大しました。この噴火での噴出物で火山岩塊などの大きな噴出物が火口周辺に落下しました。そしてこの岩の内層が非常に高温だったため餅のようにベチャベチャとくっついて凝結しました。やがて凝結部の厚さが増すと再始動が始まりました。溶岩流に代わり浅間山の北斜面を流れ下りました。これが観光地として有名な「鬼押出溶岩」です。
鬼押出溶岩は 8 月 5 日当時の浅間山の北側中腹にあった「御生沼」に流れこみました。この時高温の溶岩流が水と接した時ここでマグマ水蒸気爆発が起きました。この爆発音は遠く離れた京都にまで聞こえたこととです。その後火砕流が発生し、その火砕流は土砂などを崩しながら進みました。この火砕流は 10 キロ以上離れた鎌原村を襲いこの村のほぼ全員 466 名が犠牲になりました。さらに高温の火砕流が下流の利根川に流れ込み下流一体に

大きな火山災害をもたらしました。④

また浅間山の噴火で噴き上げられた火山灰や火山ガスの影響で日射量が減少し東北や関東地方で冷害のため農作物は壊滅的な打撃を受けました。日本国内の噴火だけなら良かったのですがアイルランドのラキガル火山の大噴火も加わり「火山の冬」と呼ばれる現象が発生しました。これが引き金になり近世社会で最大の「天明の大飢饉」も発生しました。一説によるとこの大飢饉による死亡者は数十万人にも及ぶそうです。当時の日本の人口を約3000万人と仮定すれば日本人の約1%が餓死したことになります。数値を具体的にすれば被害の状況がわかるのではないのでしょうか？そして最近浅間山の警戒レベルが2に引き上げられたことを知っていますか？これほどまでに大噴火を起こした活火山の活動が再び活発化しています。それって怖くないですか？私たちにできる対策はあるのでしょうか。次は私たちにできる対策についてまとめていきます。④

3 対策④

種別	名称	対象範囲	レベルとキーワード	説明	
				火山活動の状況	住民等の行動
特別警戒	噴火警報 (居住地域) 及び 噴火警報 (居住地域以外)	居住地域 及び それより 火口側	避難 避難準備	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生。あるいは噴火が継続している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要(状況に応じて対象地域や方法等を判断)。
				居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生するおそれがある(可能性が高い)。	警戒が必要な居住地域での避難の準備。警戒区域の避難等が必要。状況に応じて対象地域を判断。
警戒	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺警報	火口から 居住地域 近くまで 火口周辺	入山規制 火口周辺規制	居住地域に重大な被害を及ぼすおそれがある(可能性が高い)。	噴火の発生(今後の火山活動の発生)に注意。火山活動の発生に注意。入山規制等(状況に応じて規制範囲を判断)。
				火口周辺に被害を及ぼすおそれがある(可能性が高い)。	火口周辺への立ち入りには注意が必要(状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断)。
予報	噴火予報	火口内等	活火山であることに留意	通常の生活。	噴火に注意(状況に応じて火口内への立ち入り規制等)。

□上の表は火山災害警戒レベル一覧表です。この表にある警戒レベル1で御嶽山は噴火し口しました。警戒レベルに関係なく噴火する可能性は大にあるということを見ておきましょう。もしこの表についてわからないことがあったら自分で調べてみてください。

④目は防塵用マスクです。火山灰や火山ガスを直接吸い込まないように持っていきましょう。⑤目はゴーグルです。火山灰や煙から目を守るためです。⑥目は長袖(できればフード付き)です。熱や火山灰から身を守り、避難時の体温を維持するためです。⑦目は長ズボンです。熱や火山灰から身を守るには最も効果があります。短パンの場合はタイツなどをはいて素肌の露出は避けましょう。⑧目は予備の飲料水や非常食です。水分補給は栄養補給にもなります。水であれば肌の傷の洗浄もできます。最低3日分は持っていきましょう。非常食はカロリーメイトのような糖分が入って少々の量で栄養が取れそうな物を選びましょう。⑨目はメガネです。コンタクトレンズではコンタクトが原因で目を傷つけてしまいます。火山に登る時は原則メガネで行きましょう。④

下の2つの資料を見てください。上から御嶽山のハザードマップと登山計画書です。④

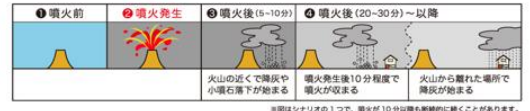


郵便1万円(表)	郵便1万円(裏)
<p>○</p> <p>ま</p> <p>た</p> <p>は</p> <p>管</p> <p>理</p> <p>署</p> <p>林</p> <p>長</p> <p>事</p> <p>務</p> <p>室</p> <p>あ</p> <p>て</p>	<p>平成 年 月 日</p> <p>——— 森林管理署長 印</p> <p>私(達)は、白神山が世界遺産地域であることを自覚するとともに、核心地域における入山マナーを遵守し、以下の心おろし願ひ致します。</p> <p>1 登山者名簿</p> <p>(1) 責任者</p> <p>① 氏 名</p> <p>② 所 属(勤務先等)</p> <p>③ 住 所</p> <p>④ 電話番号(連絡先)</p> <p>⑤ 登山参加 月 日 ~ 月 日 名</p> <p>⑥ 登山行程</p> <p>2 登山ルート番号等の登山月日</p> <p>⑦ 入山するに当たって「ボランティア一日清掃員」を引き受ける・引き受けない) ○印で記入</p>

登山計画書は郵便はがきタイプと市区町村に提出するタイプの2種類があります。自分



□次は登山中に火山の噴火に遭遇したら命を守るためにすべき対処法を紹介いたします。④
上の絵に書いてある通りですがいくつか付け加えます。まず噴火が起きたらするべき行動が2つあります。頑丈な建物に避難するか頑丈な建物が近くにない場合は、大きな岩の影などに隠れ、ヘルメットやマスクを着用し、噴石やガスから身を守る。控えていてできないかもしれませんがそんな時こそ落ち着いて行動しましょう。特に火山ガスには注意が必要です。火山ガスの成分は水蒸気だけでなく、二酸化硫黄や硫化水素も含まれこれらの成分は人体に対して悪影響を及ぼします。過去には死亡事故も発生しました。④
また火山灰にも注意が必要です。下の表を見てください。④



火山が噴火してから降灰にかかる時間が書いてあります。噴火したというニュースを見たら落ち着いて傘やシャッターを閉め、マスクの準備をしましょう。また外に動物を飼っている場合は家の中に入れておきましょう。④
活火山に登るために必要な物が全部で9つあります。1つ目はスマートフォンです。スマートフォンがあれば緊急時に救助の連絡が取れます。火山灰からの保護のため透明のジッパー付きのビニール袋に入れるのを忘れずにしましょう。2つ目はモバイルバッテリーです。スマートフォンが電池切れで使えなくなるのを防ぐためです。3つ目はヘルメットです。噴石から頭を守るために必要です。事前にサイズが合うかどうか確認しておきましょう。4

④に合った方を選び必ず提出しましょう。④
また登る山が火山なのか。火山警戒レベルが設定されているのか。注意する場所があるのか。この他にもいろいろ確認しておきましょう。④

ここまで様々なことを書いてきましたが「自分の命は自分でしか守れない」ということを頭にに入れておきましょう。山に登る時は、火山計画書の提出をし、安全に注意しての登山を行い何があっても慌てず落ち着いて冷静に行動することを心がけましょう。④

【参考させていただいた資料】④
信濃毎日新聞報道部記者島田隆一さん、Wikipedia、避難の心得、日本気象協会、気象庁、ヤフーニュースに参考させていただきました。本当にありがとうございます。④

千曲川氾濫

3年2組

千曲川とは

信濃川（しなのがわ）は、新潟県および長野県を流れる一級河川で信濃川水系の本流である。新潟市で日本海に注ぐ。このうち信濃川と呼ばれているのは新潟県域で、長野県に遡ると千曲川と呼称が変わる。この項目では千曲川と呼称される上流部を合わせて記述する。全長367kmのうち、信濃川と呼ばれている部分が153kmで、千曲川と呼ばれている部分は214kmと、60kmほど千曲川の方が長い。

長野県内の名称である千曲川の名前の由来については諸説がある。

- ・字の通り、川が千の数ほど曲がっている様子から名付けられた。
- ・旧豊田村から下流の千曲川は狭窄部が連続し、兩岸は崖状の地形を呈していることから、「チク（崖）・マ（袋状の湿地）の川」という説がある。
- ・水源地域である長野県川上村の伝説によれば、大昔に高天原に住む神々の間で大きな戦いがあり、この時に流された血潮によってできた川とされており、その血潮があたり一面隈なく流れた様子から「血隈川」と言うようになったという伝説もある。

千曲川氾濫について

千曲川は2019年10月16日に氾濫した。

台風19号の影響により堤防が破壊され川が氾濫した。

長野市穂保付近の堤防が破壊された。

堤防破壊により広範囲の大災害となった。

早期避難のあり方をめぐっては、議論が起きたのは昨年7月の西日本豪雨。気象庁が大規模警報を発令したものの、避難しなかった人が続出し、200



避難していた人たちは

高齢者は避難していた。一片付けが後回しにされていたから誰かが手を付けないと誰もやってくれないから。

中学生は学校生活で大事な物が使えるかどうか確認していた。

ショックが大きかったので親戚の家に行っている人が多かった。

千曲川の氾濫では、気象庁の度重なる注意喚起に加え、自治体の呼びかけにも反応し、早期に避難し自宅が被災しながらも負傷などを免れた住民が多かった。

逃げ遅れた住民は「冷静に考えれば早く避難すべきだった」と口をそろえ、市の担当者も「自分は安全だ」と思い込む意識が働いていた可能性もあり、今後の課題」と反省点を見いだしている。

一方、逃げ遅れた住民も出て、避難行動の難しさを突きつけた。「普段からハザードマップを確認するように」。専門家は警鐘を鳴らしている。

人を超える犠牲者を出した。

千曲川氾濫後

増水被害により住宅地が床上浸水。

千曲川周辺の人口が約3割減った。

今も家に帰れない人がいる。

堤防も強化している。

氾濫発生後に発令した「避難指示」を機に避難した住民は3割に上った。

千曲川河川事務所は、避難勧告の段階で避難するよう住民の防災意識の向上や避難情報の周知に取り組む。浮田博文副所長は「千曲川流域は浸水する範囲が広く、対象区域の住民に対していかに伝わりやすくするのが課題だ」と指摘した。

ボランティアについて

牛木先生がボランティアに行ったというのでインタビューをした。

ニュースで見たよりも被害が大きかったという。

家ごみや泥まみれだったという。

多くの人がボランティアに来ていたという。

トイレがなく我慢しながら作業していたという。

1日中シャベルで泥を一輪車についで泥捨て場に運んでいた。

被害が大きすぎて予定よりも2.3日多くボランティアに言っている人が多かった。

千曲川付近に住んでいるひとは、終わりが見えないから悲しむよりも、目の前にあるものを淡々と泥を片付けていた。

被害について

長野県などは18日、正午時点での台風19号による県内への被害額の総額は、1297億円だったと発表した。堤防の決壊など千曲川関連を中心に河川や道路、下水道の被害額が大きかった。長野市など被害の大きかった地域では、まだ調査中の箇所もあり、今後被害額は拡大する可能性もあるという。被害額の内訳は公共土木施設が696億円、うち堤防など河川関連が472億円、道路は218億円だった。一方で、浸水により機能が停止した下水道処理施設などを含め都市施設関連が464億円となった。

中部電力によると停電（長野市赤沼地区など千曲川氾濫地域を除く）は午後1時時点で約20戸となった。前日からは、80戸減少している。断水は午前10時時点で658戸。東御市や佐久穂町を中心に復旧作業が長引いている地域もある。

千曲川流域の死者107人、全壊家屋903戸、半壊家屋621戸、床上浸水3170戸、床下浸水15351戸。-長野県内死者2人、床上浸水265戸、床下浸水2815戸。-犀川支流高瀬川流域に被害が集中、観光シーズン中のため、観光客、登山客が高瀬、梓溪谷に約500人取り残され、3日後に救出。



台風19号による大雨で千曲川の堤防が約70メートルにわたって決壊し、濁流にのみ込まれた長野市穂保（はやす）地区。水が引き始めた14日、家屋や特産のリンゴ農園が流されるなど被害の一端が明らかになってきた。住民は変わり果てた姿にぼうぜんとしていた。

長野県の土砂災害について

3年2組

概要

1 南木曾での災害

2 その他長野県での土砂災害

1 南木曾での災害



基本的データ

2014年7月9日午後5時40分頃、長野県南木曾町の本曾川の支流「栗子沢」で発生。この災害で、死者1名、負傷者3名、4名の人的被害と全壊3棟、半壊4棟、一部破損4棟の人家被害が、引き起こされた。この災害の影響によって、JRが土砂の影響で通らず代行のバスが通り、交通などでも影響がでた。この様な災害は、別の場所でも同じ様な災害が起きる可能性があるので気をつけていきたい所である。

被災者による情報

この災害の被災者によると、午後に集中的豪雨であったが大きな災害にはならないうと町の人達は、思っていた。しかし、時間差によって山が崩れ土砂と流木が流れていき、砂防ダムがあっても関わらず流れていったのはダムの受け入れられる土砂量を上回ってしまいそのまま町へと流れていった。この災害によって、小学生一人が、犠牲になった。(秋山先生談)

2 その他長野県での土砂災害

基本データ

- 南木曾以外でも、長野県では多くの土砂災害が起こっている。
- その中でも、平成22年から31年までに起きた土砂災害の被害数である。
- 平成22年 土石流31件 地すべり11件 崖崩れ28件
- 平成23年 土石流9件 地すべり9件 崖崩れ21件
- 平成24年 土石流3件 地すべり7件 崖崩れ7件
- 平成25年 土石流5件 地すべり9件 崖崩れ4件
- 平成26年 土石流15件 地すべり20件 崖崩れ9件
- 平成27年 土石流2件 地すべり4件 崖崩れ10件
- 平成28年 土石流6件 地すべり6件 崖崩れ9件
- 平成29年 土石流7件 地すべり11件 崖崩れ21件
- 平成30年 土石流16件 地すべり7件 崖崩れ13件
- 平成31年 土石流41件 地すべり13件 崖崩れ22件
- 平均土石流約14件 地すべり約10件 崖崩れ約14件

(長野県庁ホームページ) この様に毎年長野県のどこかしら所で、10件以上の土砂災害が起きていることがわかる。その為、自分の住んでいるところは大丈夫だとは思わないようにして対策していくことによって、被害を事前に防いでいくことが大切である。

情報提供

上松中学校校長 秋山昇先生
長野県庁ホームページ



【当時の状況を語る秋山先生】

令和2年7月豪雨

1. 被害状況

期間 2020年7月～約1か月間

被災地域 九州地方

被害(8月3日時点) 死者:76人 行方不明者:3人

避難所で生活している人:約1400人 全半壊:606棟 床上浸水:5686棟

災害の気象要因 梅雨前線による集中豪雨

気象状況

2020年7月は、長期にわたり梅雨前線が本州付近に停滞し、西方と南方から流入する大量の水蒸気が九州を中心に西日本から東日本にかけて集まりやすい状態が続いたことなどが原因で東北地方から西日本にかけて広い範囲で記録的な大雨や日照不足となった。

2. 避難所の様子

新型コロナウイルスの新規感染者が再び増加する中、熊本県などを襲った豪雨。災害の避難所は密閉、密集、密接の「3密」になりやすいとされ、地元自治体は感染予防に注意しながらの避難所運営に努めた。

7月4日未明、全域の2万人以上に避難指示を出した熊本県水俣市。危機管理防災課によると約10か所の避難所を開設し、ピーク時は200人以上が身を寄せた。1人当たりのスペースを広めに確保し、検温や体調の聞き取りもした。

感染を心配し、車で過ごすことを希望する人も。避難者の把握のため受付はしてもらい、エコノミークラス症候群に注意するようチラシも配布した。

熊本県天草市も事前に作成したマニュアルに沿い、検温や手指の消毒をした。新型コロナに

感染している可能性があり、健康観察中という人には個室が用意できる避難所を教え、避難をする場合にはそこに行くよう伝えた。

約100か所の避難所を用意した鹿児島市はコロナ対策のため、1か所に配置する職員を増やした。定期的に換気し、避難者同士の距離をあけるよう呼びかけた。市は6月から、自宅が安全な場所かどうか確認した上で、危険なら親戚や知人宅への避難を検討するよう市民に周知している。(信濃毎日新聞)

3. 私たちにできること

- 水害の危険性を確認する
- ハザードマップや防災マップで被害予想を把握する、避難経路や避難所の確認をする。
- 災害用具の準備、確認をする
- …などがあります。いつ何が起きるかわかりません。いざという時のために日々の備えを大切にしましょう。

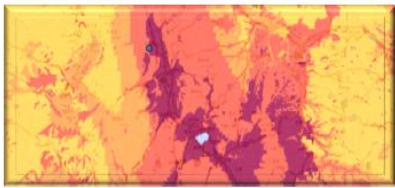
日本で今後起こる可能性のある地震（予想と対策）

関西大学の林口能成（はやし口よしなり）教授より、

「地震発生予想図」を提供していただきました。



・安曇野市の地震について



安曇野市地震発生予想図

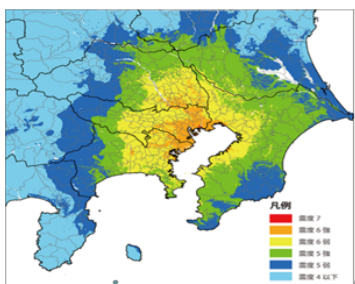
紫色が濃い部分ほど発生する確率が高い。安曇野市も地震の危険性が高いことが分かる。

1. 南海トラフ地震

南海トラフ地震とは南海トラフ（駿河湾から日向灘までの太平洋沖の海底の溝）沿いで発生する巨大地震（最大マグニチュード9クラス）のこと。この地域では、100年から200年の間隔で大きな地震が発生している。今後30年に60～70%の確率で起こるといわれている。2012年には内閣府が被害想定を発表し、最大3.4mの津波、死者3.2万人という予想が出ている。

2. 首都直下地震

首都直下地震とは、東京都及びその周辺で発生するマグニチュード7クラスの地震や、相模トラフ（相模湾から房総半島南東沖までの海底の溝）沿いなどで発生するマグニチュード8クラスの直下型地震のこと。今後30年以内に60～70%の確率で起きると言われる。他の地震に比べて津波の被害は少ないが、火災の被害が大きいと予想されている。

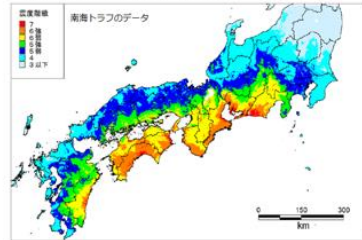


東京都と神奈川県を中心に、広い範囲で震度6強、7という予想になっている。静岡県や山梨県、群馬県の一部でも震度5弱、4となっていて、被害が予想される地域は首都圏だけではない。

・火災の被害について
全壊、焼失棟数の予想（中央防災会議から）

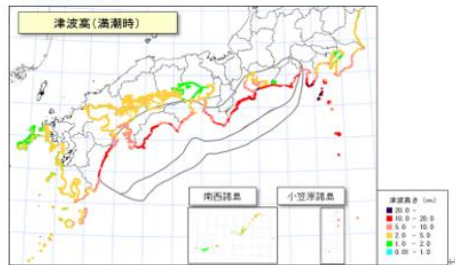
・南海トラフ・・・大陸プレートの下に、海洋プレートが年間数cmの割合で沈み込んでいる。2つの浮き沈みにより、境界にはひずみが蓄積されている。

・震度予想（気象庁HPから）



赤色やオレンジ色の所ほど震度が大きい。特に東海地域の被害が大きいと予想されている。

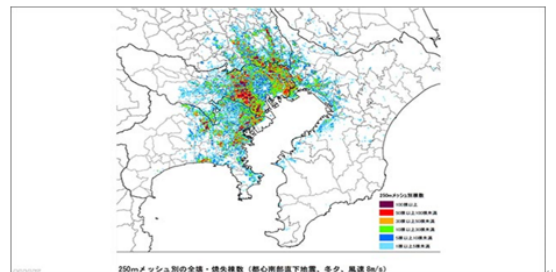
・津波予想（気象庁HPから）



広い範囲で10m～20mの津波が予想されている。

・死者数予想（合計約33万人）

建物倒壊・・・約8万人 津波・・・約2.3万人 その他・・・約2万人



被害想定（最大）

全壊・焼失家屋数約6.1万棟

死者数約2.3万人

要救助者約7.2万人

特に東京都が紫色や赤色の所が多く、被害が大きいとされていることが分かる。

・被害予想と対策

対策前（被害予想） 対策後

①建物被害約8.2万人（耐震化率、家具転倒・落下防止）→約1.5万人

②津波被害約23万人（全員すぐ避難、避難ビルの活用）→約4.6万人

③傾斜地崩壊約600人（危険箇所の整備）→0人

④火災約1万人（感心ブリーカーの設置）→約300人

⑤ブロック塀約30人（転倒防止、落下物対策）→0人

合計約32.3万人 →約6.1万人

⇒すぐに避難することがとても重要だと分かる。

対策を完璧に行えば、被害者を最大で26万人も減らすことができる。

対策を全員が完璧に行うことは難しいが、被害を最小に抑えることができる。

東日本大震災



- 1. → 町並みを一変させた巨大地震
- 2. → 地震発生時
- 3. → 余震・その他の被害について
- 4. → 被災者から
- 5. → 被災地と復興の現状

←

←

←

←

←

堀金以外の安曇野市の自然災害

1 安曇野市の地形について

安曇野市は急峻で高低差のある地形や複合扇状地の地形という地理的背景から、台風や異常気象による集中豪雨によって起こる災害が懸念される。地震に関しても牛伏断層を含む糸魚川―静岡構造線断層帯を震源とする地震など、直下型地震による影響も計り知れない。それに加えて、近年の都市化、高齢化、国際化等により、災害脆弱性の高まりが見られるため、これらの変化に十分配慮しつつ防災対策を推進する必要がある。

その対策に、防災施設・設備の整備の促進、防災体制の充実、住民の防災意識の向上及び自主防災組織等の育成強化、要配慮者を含めた多くの住民の地域防災活動への参加などを行っている。

<https://www.city.azumino.nagano.jp/soshiki/4/11752.html> より引用

2 風水害について

当市では犀川、穂高川、高瀬川がそれらの合流部を中心に2～5mの浸水の恐れがあり、台風や集中豪雨により過去にたびたび氾濫している。また、黒沢川、万水川の両岸で幅1～1.5kmにわたって0.5m未満程度の浸水の恐れがある。市域の東西を急峻な山地帯が囲んでおり、法指定による土砂災害警戒区域、土砂災害危険箇所など、土砂災害を警戒すべき区域・箇所が多数存在している。

国土交通省北陸地方整備局千曲川河川事務所では、水防法改正に伴い平成19年1月に犀川流域が浸水想定区域の指定を受けたことにより、浸水想定区域図を作成・公表し、本市でもこれに基づき洪水ハザードマップを作成し、市民に配布している。

これが洪水ハザードマップの実物だ

1. → 町並みを一変させた巨大地震

2011年3月11日午後2時46分ごろ、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生。宮城県の栗原市では震度7を記録した。宮古、釜石、大船渡、石巻、相馬などに津波が押し寄せ、全国で約13万戸が倒壊。死者は、15,899人、行方不明者は、2,528人にもなった。(2020年9月時点警察庁)

気象庁はこの地震を「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」と命名した。

また、この地震による災害について「東日本大震災」と呼ぶことが閣議決定された。

「平成23年度(2011年)東北地方太平洋沖地震」は、国内観測史上最大規模の地震であった。(↓宮城県石巻市の市街地□左が被災前□右が被災後)



←

2. 地震発生時

・最初はとても小さな揺れだったが、揺れが徐々に大きくなり、ゴーゴーと音を立てて揺れた。

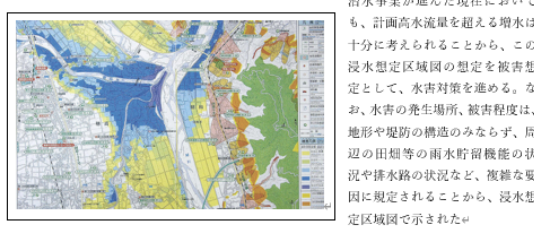
←

・防災対策庁舎の様子

・地震発生時、屋上に30人ほどいたが、津波が押し寄せ数分後には10人ほどになっていた。

←

・屋上に設置されていた5mほどの無線アンテナにより塗り津波を逃れた人もいた。



治水事業が進んだ現在においても、計画高水流量を超える増水は十分に考えられることから、この浸水想定区域図の想定を被害想定として、水害対策を進める。なお、水害の発生場所、被害程度は、地形や堤防の構造のみならず、周辺の田畑等の雨水貯留機能の状況や排水路の状況など、複雑な要因に規定されることから、浸水想定区域図で示された

←

https://www.shimintimes.co.jp/news/assets_c/2019/11/hpej11190060-thumb-1000xauto-7358.jpg

想定は1つの目安と考え、想定されていない場所、想定されていない規模の水害についても柔軟な対応ができるよう留意する。

←

3 土砂災害の想定

当市域の東西を急峻な山地帯が囲んでおり、法指定による土砂災害警戒区域、土砂災害危険箇所など、土砂災害を警戒すべき区域・箇所が多数存在し、本市では、土砂災害ハザードマップを作成し、市民に配布して、市民に注意を呼びかけている。これらの区域・箇所での土砂災害を想定するほか、法未指定の区域・箇所についても、先入観にとらわれず、土砂災害が起こりうるものと想定し、柔軟な対応ができるよう留意する。

1・交通・通信施設の風水害に対する安全性の確保、治山、治水事業等の総合的、計画的推進等風水害に強い安曇野市を形成する。

2・総合的風水害対策の推進等による風水害に強いまちの形成、建築物の安全性確保、ライフライン市内は、急峻な地形、もろい地質とあいまって風水害による大きな被害が懸念される。

←

←

←

災害時中学生にできること

1、避難所で生活することになったら

2、中学生ができること

3、今、私たちにできること.....改ページ.....

2016年に起きた熊本地震やこれから起こるとされている南海トラフ地震などこれからも自然災害は起こります。その時中学生には何ができるのでしょうか。



もしも避難所で生活することになったら

自然災害で家が倒壊し住めなくなったりライフラインが停止したりすると、当面の生活を避難所で過ごすことになります。

さまざまな人と生活を共にする避難所は、みんなが健康でより快適に過ごせるように、清掃や衛生管理などを協力して行うことや妊婦や幼児、高齢者、持病や障がいのある方への配慮、支援が必要となります。

また、中学生も含め地域の住民みんなで役割を分担し、進んで自分ができることをやろうという姿勢が大切になります。



中学生ができること被災地で行われた活動を参考に考察。

生活の場の掃除

ボランティアの人が寝泊まりをする体育館の畳を、きれいに拭いて敷いた。

力仕事をお手伝い

除雪作業を手伝った。

炊事や配膳

避難所生活の負担を減らすため、昼食作りを手伝うなどです。

災害に備えて、今、私たちにできること

災害被害を少なくするのは「自助」と「共助」

大地震や豪雨など自然現象は人の力でくい止められなくても、災害による被害は自分たちの日頃の努力によって減らすことができます。

行政による「※1公助」はいうまでもありませんが、自分の身は自分で守る「※2自助」、地域や身近にいる人同士が助け合う「※3共助」こそが、災害による被害を少なくするための大きな力となります。ただし、身の周りの人を助けるには、まず自分が無事でなければならず、「自助」あつての「共助」です。

ふだん、できていないことを災害時に行くことはできません。平時から、「自分でできること」「家族でできること」「ご近所と力を合わせてできること」などについて考え、災害に備えておくことが大切なのです。

ふだんからの地域のつながりが大切

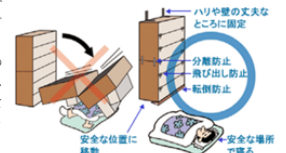
阪神・淡路大震災で家の下敷きになった人々の多くを救出したのは、家族や近所の人たち。大規模災害時の救助や避難などには、隣近所同士の助け合いがかかせません。自分のまわりの危険な所を知っておく、近所づきあいやお年寄りへの声かけなど、ふだんからの心配りがいざという時に力を発揮します。

町内会や自治会が中心となって開催される行事で、地域の防災に関する取り組みを知ることができます。また、参加型の防災訓練では、救出・救護、炊き出しや避難訓練、地震体験車の揺れなどを体験できます。

部屋の総点検をする

大地震では、テレビが飛び、タンスが自分の上に倒れかかってきます。阪神・淡路大震災で

多くの方が倒れてきた家具の下敷きになって、尊い命を失ったり、大けがをしたりしました。また、テレビや家具が散乱し、逃げ遅れた人もいます。一方、窓ガラスや食器は、鋭い破片を床一面に広げ、自分の行く手を阻み、素足で歩ける状態ではありません。スリッパやズック履など、いつでも使えるように置いておきましょう。「生き残ってからのことよりも「生き残るため」「死なないための努力」を先に行いましょう。まずは、身近な空間の安全点検と必要な対策が最優先です。



防災マップ（ハザードマップ）をチェックする

防災マップとは、大地震、津波、洪水などの自然災害が発生した場合の被害の様子や、避難・救援活動に必要な情報が掲載されている地図のこと。自宅はもちろん、学校や職場の近く、通勤通学途中にある避難所を、家族みんなで確認しておきましょう。なお、学校や職場で被災した場合は、先生や防災担当の指示に従いましょう。

防災マップは、市町村役場や公民館などで配布されています。また、各自治体のホームページにも掲載されています。



外出先でいつも身につけておきたいもの

外出先で災害にあり場合を考え、いつも身につけておきたいものがあります。重要なことは、無意識に持って歩くような気軽さ。小さく・軽さだけでなく、財布やバッグ、衣類のポケットに入る、キーホルダーに付けられるなどがポイントです。

連絡や避難、帰宅のための現金、万一の際に役立つ身元や連絡先を記したカード、持病がある人はかかりつけの病院の診察券や病名、処方薬を書いたメモなど。

状況を把握するためのポケットラジオとメモ帳、筆記具など。

外出先で屋内に閉じこめられた場合に備えて、LEDランブ付キーホルダーと笛、口を覆うハンカチやペットボトルの水



やチョコなど。

家庭やオフィスに常備するもの

速やかに屋外へ避難するために、履きやすく脱げにくいひもなしのズック靴、雨や防寒のためのレインウェア、ガラスや瓦礫をかき分ける革手袋、両手のあくLEDのヘッドライトなどを、寝室や玄関、オフィスの机の下などに多重化して置いておきましょう。

速やかに屋外へ避難するために、履きやすく脱げにくいひもなしのズック靴、雨や防寒のためのレインウェア、ガラスや瓦礫をかき分ける革手袋、両手のあくLEDのヘッドライトなどを、寝室や玄関、オフィスの机の下などに多重化して置いておきましょう。

「あれば便利なもの」より「なければ困るもの」を常にまとめて身近に置いておきましょう（常備薬、入れ歯や補聴器、スベアの眼鏡、通帳や証券類の控え番号を記したメモ帳など）。

防災用の特別なものではなく、日常生活で無意識に更新されるものをストックしましょう。ティッシュやトイレトーパー、ラップ、アルミホイル、大型ゴミ袋、レジ袋、水のペットボトル、新聞紙など、安価で入手しやすいものを定期的に更新し、多重化して置いておくこと。職場のロッカーや引き出しなどにも個人で使用するものを備えましょう。



画像

いらすとや

画像・情報参考

内閣府

※1

市役所や消防・警察による救助活動や支援物資の提供など、公的支援のこと

※2

市役所や消防・警察による救助活動や支援物資の提供など、公的支援のこと

※3

地域の災害時要援護者の避難に協力したり、地域の方々と消火活動を行うなど、周りの人たちと助け合うこと

災害時、今更聞けない自分の身を守る方法

*もし、災害が起こったら

○地震が起きたら

学校や家にいるときに地震が起きたら、机やテーブルの下に隠れましょう。

外にいるときは、屋根の瓦やビルの窓のガラス、ブロック塀や自動販売機など、落ちたり倒れたりする恐れのあるものから離れましょう。

○火事が起きたら

火事で発生する煙は、想像以上に早く広がります。きちんと今起きていることを理解し、少しでも冷静に身を守るようにしましょう。

人間はいざ避難しなければならない時、無意識に来た道を戻る、慣れている道を選ぶ、多くの人が逃げる方向に行ってしまう習性があります。まずは少しでも冷静になるように心がけ、適切に避難できる方法を見つけましょう。逃げる際は扉などを閉め、火に空気が入らないようにして避難することも重要です。

○その他、豪雨災害・土砂災害が起きたら

前触れ（天候の急変など）に気づいたら、早めに避難の準備をしておく事も大切です。避難の際には、必ず火の始末と戸締まりをして避難しましょう。土砂災害の場合、警戒情報等が出てからでは遅い可能性もあるので、不安を感じたら雨の引くうちに避難準備を進め、土砂災害の危険性が無い地域外出してしまふなど、早め早めの行動をしましょう。

○家の中を確認しよう

大きな自信が起きると、家具が倒れたり、物が落ちたりしてケガをすることがあります。もしもの時に備えて、危ないところが無いか確認しましょう。家具が倒れないように突っ張り棒（固定金具など）などで固定したり、家の中に閉じ込められないように、ドアの近くに倒れやすい物を置かないようにしましょう。

○家の人と確認しよう

家の中で危ない場所はありませんか？避難場所や道のりは分かりますか？避難場所にも行く物は用意してありますか？普段から家族内で話し合ってみましょう。そして、家族が3日間過ごせるくらいの水や食べ物、着る物などの持ち出し品を準備しておきましょう。

*災害に向けて、これから

避難訓練で学んだこと、テレビやインターネットで災害現場を見て感じたこと、それらを生かして今からできることを考えることも大切です。自分たち人間の方で災害を食い止められなくても、災害による被害は自分たちの日頃の努力によって減らすことができます。自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合う「共助」こそが、災害による被害を少なくするための大きな力になります。ただし、身の回りの人を助けるには、まず自分が無事であればならず、「自助」あつての「共助」です。平時、できないことを災害時に行うことはできません。日頃から、「自分でできること」「家族でできること」「ご近所と力を合わせてできること」などについて考え、災害に備えておくことが大切なのです。

災害に備えて各家庭で準備するもの

3年2組

<input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 食料品 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオと予備の電池 <input type="checkbox"/> 救急用品・薬品 <input type="checkbox"/> 簡易トイレ <input type="checkbox"/> カセットコンロと予備のボンベ <input type="checkbox"/> ローソク・ライター・マッチ <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー <input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> ナイフ <input type="checkbox"/> 連絡用のアドレス帳 <input type="checkbox"/> 預金通帳のコピー・印鑑 <input type="checkbox"/> 筆記用具（マシなど） <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 衣類 <input type="checkbox"/> 現金	
--	--

※非常持ち出し品・備品は、いざというときに使用出来る様に定期的に点検しておく。

○もしも家庭・職場で地震が発生したとき

身の安全を確保する
 ガスの元栓を閉め電気のブレーカーを落とす
 非常脱出口を確保する
 揺れが完全に収まるまで外に出ない

安全な避難場所へ集合し、家族や隣近所と安否の確認をする
 救助が必要な場合は、力を合わせて救急救助をする

自宅が居住困難になったら市が開設した指定避難場所への移動を検討する。




台風 (平成10年)

9月22日、台風7号が日本列島を横断、福井付近でも午後4時すぎから降りに向よりの風が強まり、断続的に強い雨になった。この状態が午後9時頃まで続いた。この前松本測候所では観測史上最大の瞬間最大風速31.6m/s上りを記録した。そして農作物に甚大な傷跡を残しているのだった。

「夜明けた秋分の日、農作物の被害が明らかになった。特に収穫を間近に控えてリンゴなどの果樹に大きな被害がでた。

リンゴの木の下は、落下したリンゴが散出し、わい化の糞ごと倒れている木もあった。台風7号の被害は、農作物だけでなく、樹木による家屋の障害や、土着土質の屋根が飛ばされるなどの傷跡を残すものとなり、防ぎようのない天災の恐れが広がった。

・リンゴの木直し
台風7号の被害で倒れたり傷んだりしたリンゴの木を直す作業に、三田リンゴ部会の会員たちが10月2日に取り組んだ。被害の大きい木に数人が取りかかり、太い枝や幹に支柱などを立て直した。

安曇野市の自然災害について

安曇野市の災害特性

安曇野市は、急峻な山と高低差のある地形や礫層が地層の地形という地理的背景から、台風や異常気象による集中豪雨によって起こる災害が懸念されます。地震に関しては、中央構造線を沿った糸川-鈴掛構造線断層帯を震源とする地震など、直下型地震による影響が計り知れません。

安曇野でも災害は起きている

台風10号	梅雨前線豪雨
(昭和59年9月28日) 死者9人 家屋全壊33世帯 床下浸水495世帯 安曇野市においても量科で国道19号の路肩が崩壊。明科でも警報水域を突破。	(昭和64年7月16日~18日) 梅雨前線の影響により、犀川南稚川が氾濫。地元住民及び消防団員60人が水防作業にあたる。


このように安曇野でも災害が起きています。

どういった対策をとればいいのか

- 防災マップを見て、指定緊急避難場所を確認しておく
- 安曇野の地形が特徴について知っておく
- 防災グッズを用意しておく

●いつくるかわからない自然災害についてよく考え、いざという時自分の身は自分で守れるようにしておきましょう。

最後に、さびごま資料を送っていただいた安曇野市役所危機管理課の望月さんに、お礼の言葉を述べました。



長野県の火山災害

1. 御嶽山噴火

御嶽山とは、長野県木曾郡木曾町・王滝村と岐阜県下呂市高山市にまたがっている複合成層火山

標高... 3067m ← 日本の火山で2番目の高さ

位置... 北緯35度59分38秒、東経137度28分49秒




活火山ランク... B

2014年9月27日11時52分、71年ぶりに噴火。犠牲者5人、軽伤不明者7人を出す結果になりました。9月10日、11日に火山時地震が1日に10回程度あり、噴火レベルは2。

レベル2に引き上げられれば1km以内の入山は規制されたため50人もの犠牲者を出してしまうこともなかっただけです。

今後、火山災害で犠牲者を出さないためにも火山について知り役立てていくことが大切です。

噴火時の御嶽山







2. 火山災害の危険性

火山は時として大きな災害を引き起こします。災害の要因となる主な火山現象には、大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流、溶岩流、小規模噴石・火山灰、火山ガス等があります。

また、火山噴火により噴出された岩石や火山灰が堆積しているところに大雨が降ると土石流や泥流が発生しやすくなります。

特に、大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流は、噴火に伴って発生し、避難までの時間的猶予がほとんどなく、生命に対する危険性が非常に高いため、防災対策上重要な高い火山現象として位置づけられており、噴火警報や避難計画を活用した事前の避難が必要です。

●避難する際の注意事項

- 行先等の主な動向と登山者・入山者への対応は警察側からもお知らせしています。
- 表で表しているものは噴火が想定されている火口。あるいは火口が出現しうる領域のこと。

避難、避難準備や入山規制の対象地域は、火山ごとに火山防災協議会での共同検討を通じて地域防災計画と定められています。火山活動の状況によっては、具体的な対象地域はあらかじめ変更された地域とは異なる場合があります。その反面、その場の状況に応じて適切な判断をして行動することが大切です。

長野県の地震災害

① 長野県神城新層地震

発生 2017年11月22日 震源 巨高村
22時05分



マグニチュード：6.7 最大震度：6強

災害による人的被害(世帯) 死者0名 負傷者若干名 避難者若干名

災害の経過(県内)

・避難所の物販 ・専らネットで見ても分かる ・地震により被害が拡大した

巨高村出身の女性の物語

- ・最初は避難がまだあつたので2つに備えた。
- ・それが2つともが崩壊したのちに避難所まで来た。
- ・避難所には避難所の運営がうまくいかなかった。
- ・避難所運営がうまくいかなかった。
- ・避難所運営がうまくいかなかった。



② 長野北部地震

発生 2017年9月12日 震源 長野県北部
03時39分



マグニチュード：6.7 最大震度：6強

災害による人的被害 死者3名 負傷者0名

被害の状況

	全域	大規模半壊	半壊	一部損壊
木造住宅	25棟	9棟	74棟	194棟
瓦葺住宅	1棟	0棟	0棟	0棟
瓦葺住宅	1棟	0棟	0棟	0棟

- ・建築物の耐震性の強化
- ・地盤のつなぎを大々的
- ・ハードウェアの作成

情報提供
長野県北部地震 実地調査報告書
長野県神城新層地震 神城先生



3 犠牲者・行方不明者の 家族・友人の思い

御嶽山噴火から6年、今でも、行方不明者の家族や友人の方には十分な情報が見られることがなく、決して静かであることが多く残念な状況が続いています。
皆さんも、御嶽山噴火での行方不明者の捜索活動についての記事やニュースや新聞等を見ることがあるのにはなっていないでしょうか。
ついさっきまで一緒に居た人が一瞬にして居なくなってしまう。探すことも出来ない。犠牲者・行方不明者の方の家族や友人は悲しくてやりきれない気持ちでいっぱいだと思います。ですが、その家族や友人の方が思いを伝えて下さることで、今私たちが御嶽山噴火のことについて知ることができています。私たちがこのことについて被災者に伝えたいです。

今回、長野県の火山災害についてまとめる際に島田隆一さんにお話を聞かせていただきました。火山災害についてより知ることができました。
島田隆一さんは防災関係で「火山と生きる」という記事を書いています。この記事では御嶽山噴火直後の状況、観測、予知や救助、捜索、被災者への支援、避難所づくりなどを目的とした7つの報告書を書いています。

～千曲川氾濫～



台風19号の豪雨による千曲川の氾濫は、上田・長野の千曲川沿いに甚大な被害をもたらした。10月12日の24時間降水量が最高値を記録した。千曲川は、上田・長野の千曲川沿いに甚大な被害をもたらした。10月12日の24時間降水量が最高値を記録した。千曲川は、上田・長野の千曲川沿いに甚大な被害をもたらした。10月12日の24時間降水量が最高値を記録した。

台風19号の影響で、千曲川沿いの堤防が崩壊し、千曲川が氾濫した。千曲川沿いの堤防が崩壊し、千曲川が氾濫した。千曲川沿いの堤防が崩壊し、千曲川が氾濫した。千曲川沿いの堤防が崩壊し、千曲川が氾濫した。



長岡技術科学大学が堤防決壊について、適切な堤防が崩壊した。長岡技術科学大学が堤防決壊について、適切な堤防が崩壊した。長岡技術科学大学が堤防決壊について、適切な堤防が崩壊した。

台風19号による千曲川の氾濫は、千曲川沿いに甚大な被害をもたらした。台風19号による千曲川の氾濫は、千曲川沿いに甚大な被害をもたらした。台風19号による千曲川の氾濫は、千曲川沿いに甚大な被害をもたらした。



台風19号による千曲川の氾濫は、千曲川沿いに甚大な被害をもたらした。台風19号による千曲川の氾濫は、千曲川沿いに甚大な被害をもたらした。台風19号による千曲川の氾濫は、千曲川沿いに甚大な被害をもたらした。

長野県南木曾土石流災害

- 災害発生場所 南木曾町越後町 梨子沢
- 災害発生日時 平成26年7月9日(水) 午後5時40分頃
- 発生概要
 - 7月9日、台風18号が長野県を通過し、北信地方に大雨が降りました。南木曾町梨子沢では、土石流が発生し、約100人が避難しました。
- 被害状況
 - 約100人が避難し、約100戸の家が被害を受けました。
- 被害者の状況
 - 土砂崩壊が起きたことにより、約100人が避難しました。
- 情報提供 上松中学校校長 秋山 昇先生
- 秋山先生が教えてくださった大切なこと

過去にあ、たことを知るのも防災

自分の命は自分で守る

感想 土石流災害の危険性を知り、まとめることが何人の人に知ってもらい、「自分の命は自分で守る」という意識を高めると思いました。

近年の日本の災害(九州)

九州の豪雨被害が拡大している。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。

熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。

熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。

熊本豪雨・地震

熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。

熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。

熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。

これから起きる可能性のある地震

- 南海トラフ地震
 - 南海トラフ地震とは、紀伊半島から日向灘にかけての太平洋の海溝の深さ約1000mで発生する最大マグニチュード(7.1〜7.3)の地震のこと。
 - 南海トラフで1000年〜2000年の間隔で大地震が発生している。
 - いつ起きるか…この地震は、30年以内の M_w 7.0以上の確率で起きるのではないかと言われています。
- 首都直下地震
 - 首都直下地震とは、都府県及びその周辺地域の直下で発生するマグニチュード7クラスの地震。相模トラフ(相模湾から房総半島南東沖までの海溝の溝)に沿って発生するマグニチュード7クラスの南海トラフ地震のこと。
 - 各地の震度 東京圏、神奈川北郊、埼玉千葉の一部では、震度6以上の強い揺れが予想される。
 - 地震後の火災が発生する確率が高くなる。
 - 地震発生すると、広い範囲に被害が及ぶ。
- 地震へのそなえ
 - 意識して、非常食を備えたり、自分の住んでいるハザードマップの確認なども、定期的にしておく。
 - 家の中心地震に強い構造にしておく。
 - 例) テレビ台やたんす、食器棚などを固定する。
 - パソコンや小物は粘着マットなどで固定する。
 - 軽い物を入れる家具は基本的に、重い物を下。
 - 軽い物を上に乗ける。
 - パソコンなどの軽い家具は地震の時、落ちてこず、飛んでくるので、日ごろ意識して、ない場所を、色んな角度で確認しておきましょう。
- まとめ
 - 地震大国の日本は、大地震が頻りに起きていることを、学習を通して改めて感じるようになってきた。
 - 日ごろから、地震への備えを、家族としたい。

近年の日本の災害(九州)

九州の豪雨被害が拡大している。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。

熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。

熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。

熊本豪雨・地震

熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。

熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。

熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。熊本豪雨、死者22人。

